

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372400939		
法人名	有限会社 ホリ		
事業所名	グループホーム たんぽぽ 東棟		
所在地	熊本県玉名郡南関町四ツ原1338		
自己評価作成日	平成25年9月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成25年9月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな田園風景を眺望できる小高い丘の上にあつて、すぐ近くには毎年お花見の招待をして頂ける大きな工場もあり、民家も点在しています。また近隣にはいろいろなお花の名所に恵まれており、機会あるごとに出かけて季節を味わって頂いております。
ホーム内にも常に野の花、山の花に気を配り、鳥のさえずりや虫の音など身近に自然を感じて生活されています。
作物農家と直接契約し砂地で収穫されたおいしいお米を購入し、卵は飼育農家から直接新鮮なものを購入したり、ホーム内にも畑を利用者と共に作り、季節の野菜などを収穫し、おいしさを追求した料理を作っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成15年に開設したホームでは経年による高齢化(最高齢101歳)や重度化傾向にホームのあり方について検討し、毎朝の体操やホーム周辺の散歩等による身体機能維持や、調理担当者の採用等職員を増員しケア強化に努めている。代表は日々ホームで入居者とのコミュニケーションを図り、職員へは熱い思いを持ってケアに努めることを指導しており、職員の安全面に配慮しながらの明るいケアが入居者の落ち着いた生活となって表れている。開設時より地域との交流の一環としてのグランドゴルフ「たんぽぽ杯」は多くの地域住民の楽しみ事として定着し、ホームにも敬老会等にボランティアとして訪問される等地域の中での基盤は磐石である。介護度や年齢的な差が広がってきており、今後も生活リハビリの継続により身体機能低下防止に努められることを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関ホールに事業所独自の運営理念を提示し、毎朝朝礼時、月一のミーティング時に職員全員で唱和し、実践している。	開設時からの理念4項目を掲げ、掲示や朝礼時の唱和により共有化を図っている。代表は職員個々に理念に即したケアを行うことを指導し、職員も毎月主体的に目標を掲げ、その実践にまい進している。	開設して10年、職員の入れ替わりや入居者の高齢化・重度化という現状や家族や地域のニーズの変化等も踏まえ、全員で理念の見直しを検討されることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接する工場との相互交流や買い物等の地域の中での生活拡充を図り、地域住民のボランティアの訪問の他、たんぽぽ主催のグランドゴルフは常態化し多くの住民が楽しみにされています。	自治会に加入し回覧板の受渡しや隣接する工場でのお花見、地域での食事等に出かけている。また、ボランティア(カラオケ・踊り等)の訪問及び野菜のおすそ分け等に気軽に立ち寄られる近隣住民との交流に努めている。毎年開催されているグラウンドゴルフ「たんぽぽ杯」には多くの住民が参加されており、入居者も応援に出かけている。	地域の中での基盤は磐石ではあるが、立地的及び加齢による重度化等により、外に出での交流は難しくなっている。入居者の状況に即した地域との日常的な交流について検討されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援などを訴えながら、事業所の地域貢献のひとつとしてグランドゴルフ「たんぽぽ杯」を主催しているが、人々に向けて生かすというのはなかなか難しい。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、定期的で開催し、その間のサービス現状を報告 家族や知見者、行政、他の事業所からの意見を基に話し合い、その後のサービスに生かすようしている。	行政・民生委員・他のグループホーム職員や家族(輪番で参加)等により隔月の15日に開催されている。ホームからの報告が行われ、行政からの時節に応じた情報の発信の場、他のグループホームの取組み等知る機会として、また、参加委員や家族と役場とのパイプ役としての効果も表れている。	今後も、事前に具体的な課題を挙げる等ポイントを絞った話し合いや、運営推進会議からの意見・提案等をサービス向上に活かされることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2ヶ月に一度の運営推進会議には行政の方に出席していただきホームの実情や取組を伝えるなどして協力関係を築くようにしている。	代表は役場に足を運び、地域の一人暮らし支援等を定義したり、運営推進会議議事録や事故報告・認定更新等に出向き情報を発信している。運営推進会議の参加時には介護保険制度の説明が行われる等協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の介護保険法指定基準については、随時、説明し理解してもらっている。	拘束はもともとやらないものであると全員が認識し、研修により再認識を図っている。また、代表は入居者一人ひとりの情報を把握し、適切なケアや個々のペースでのケア、職員の声かけ等その場で注意喚起している。入居時この場所を家として認識してもらうよう気遣い、慣れてもらうことで落ち着いた生活につなげており、玄関等オープンにし自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法については、随時、説明し、理解してもらっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に周りに対象となる方々がおられず、資料として回覧し話をするもの全ての職員が理解し活用できるようには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に家族に重要事項説明書に沿って入居料、ホーム内での生活の仕方などを事例を基に説明、理解していただき契約に至っている。解約も問題にあったやり方で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価機関へのアンケートや運営推進会議でのご家族の意見、また介護計画変更時や担当者会議等ご家族等の訪問時には、現状を説明しご意見やご要望を聞き、その後活かすように努めている。	家族の訪問が遠のかないように利用料を現金での支払いとし、訪問時に家族の要望や意見を引き出し、要望等が出された場合には全職員で検討している。家族会や運営推進会議も問題提起の場として活かされており、看取りケアの話し合いや家族との旅行等も家族会の中で検討する等家族の声を反映した運営体制である。また、重度化に伴い、家族の負担軽減も視野にしたケアに取り組んでいる。意見箱の設置や第三者委員の存在等も説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や日々の申し送り中で、意見や提案が行われ 良いと思われる個々のケアの方法や運営方法が取り入れられている。	日々の申し送りや先ずは各ユニット毎で話し合い、毎月開催する会議の中に問題点を提議し全員で検討している。代表も日々ホームに出て入居者及び職員とのコミュニケーションに努め、職員との食事会や海外旅行等により職員との関係構築の一環としたり、資格取得を推奨している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績などを考慮して、職員も生き生きと仕事に取り組み、向上心を持てるような職場づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時の当ホームで経験のある職員が指導したり、他の施設への研修、県の研修参加を含め、ミーティングの中で良いケアが行えるように説明したり、随時 説明したりしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所の推進会議、玉名郡市グループホームの連絡協議会への参加を通して交流する機会を作り、それを参考に今後のサービスの質の向上を図るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人がここで安心した生活ができるよう、寄り添いゆっくりとコミュニケーションをとることで、その人らしさを知り信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人のこれまでの生活状況をご家族等から伺い、ご意見ご要望に添えるようなサービスに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族が当ホームで健康管理面で不安が生じた場合は、医療機関との連携をはかり随時 対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事は同じものを一緒にとり、利用者によっては 食事の準備後片付けや洗濯物をたたんだり 畑仕事をしたり、散歩をしたり 本人と穏やかに一日を過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来ていただいた時に現状を説明し、今後 ご本人に対する支援について話合うように努めています。3ヶ月に一度は入居者の状況報告を行っております。気になることがあれば電話で報告することもあります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の他、知人や近所の方の面会や、初詣に出かけたり、家族の希望でお墓参りや法事への外出もあります。	家族・友人の訪問や家族支援による墓参・法要参列等馴染みの関係性の継続に努めている。誕生会には家族にも案内し関係性を保ち、馴染みの店での外食等を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食卓の席や、リビングで過ごす場所、入浴の順番など 利用者同士の関係を把握し関わり合いがうまくいき孤立させないように配慮し、支障が生じた場合は変更している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今まで培ってきた関係を大切に思い ご家族の相談にのったり、お顔を見に行ったりしております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションがうまくとれていない利用者もいて、入居者ひとり一人の思いや意向を把握していないところもあり、はやく 全員とコミュニケーションがとれるように努めています。コミュニケーションがとりづらい利用者に対しては表情・感情、発語をみおとさないように受け止めてプランを実践しています。	代表及び職員はゆっくり一人ひとりに話しかけ、会話の中で思いを引き出している。発語困難や意思表示の少ない入居者には表情や笑顔から推察し、“らしい生活”を支援することに注視したケアを実践している。日々の記録に言葉・表情・行動を詳細に記録し、個々の思いの実現に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前やその後にご本やご家族から話を聞く中で把握し、生活環境、サービスの利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出勤してきたら必ず、業務日誌、連絡帳を読むようにし 朝礼時 勤務交代時には必ず申し送りを行い、その後の本人に合った支援や対応をするように心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	短期・長期目標を担当者会議であげ、必要に応じて担当者だけではなく職員も同席して、プランを見直し現状にあった計画を作成しています。	日々の記録時にサービス内容を確認することでケア統一に努め、家族の意向をもとに代表・管理者・ケアスタッフによる担当者会議を開催し、援助目標やサービス内容を家族に報告し承認を得ている。介護計画担当者としても毎月モニタリングを行ない、短期目標期間である半年毎に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、連絡帳、まるごととらえたケア記録に記録を行い、課題に対してうまくいった方法など職員間で情報を共有して、今後の計画に役立てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況の変化やニーズに対して医療機関との連携や外出による気分転換等、柔軟な支援やサービスを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生活の中や毎月の行事の中なかに自然や季節感を取り入れ、ボランティアの訪問、ホーム内の畑、花壇の手入れや収穫など地域資源を生かし暮らしを楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への定期的な受診や往診により、本人及びご家族等の訴えや希望を聞いて頂いて、適切で安心していただける医療を受けて頂いている。	かかりつけ医や救急時の搬送先など家族の意向を確認し、希望に沿って安心して預けられる環境の整備・対応に努めている。協力医による往診や他の医療機関についても家族やホームでの受診支援を行い、個人受診記録に詳細を残し次回の診療や健康管理に活かしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	急変等に備えるため協力医療機関を定め、かかりつけ医による定期的な往診、または定期的な受診を行っております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報の提供と、病院へ付き添うことによって本人やご家族の安心に努めており、入院時の面会にも行っております。必要と思われる場合は直接 医師からの説明をうけています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の場合、人員体制や高レベルの支援方法も必要で現時点では困難であるため、連携している医療機関に搬送し、対応してもらうようにしている。	重度化・看取りに関わる指針を作成し、ホームに出来る支援や24時間対応できる心強い協力医の存在などを家族へ説明している。これまでホームでの看取りの事例はないが、継続した医療支援が必要のないギリギリの時点までホームで対応が行われた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体ミーティング、研修、マニュアルと情報として流しているが、職員個々の能力の違いによる対応などが無いように繰り返し訓練していく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署と防災会社の協力を得て防災避難訓練を行っている。定期的にスプリンクラーの点検を行っている。	消防署・防災会社の立会い、協力による年2回の防災訓練や、地域消防分団を招き、ホーム内の状況を見てもらい訓練を行っている。また、定期的なスプリンクラーや日頃のガスの点検、消火器も水や実際の物を使い、訓練後は受けた指導を全員で共有し次回に繋げるなど災害対策の強化を図っている。ホームは井戸水であるが発電機や米・麺類を備蓄としている。	ホームは地域消防団と連携を図るなど地域との協力体制の構築に努めており、今後も自然災害を含め更に災害対策の強化を図っていかれる事に期待が持たれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライドを傷つけないような言葉づかいや対応については、日頃より徹底するよう努めています。	管理者は日頃から丁寧な声かけをはじめ入居者に接する際に大切なことを伝え、ケア規範を掲示し共有を図っている。呼称は日頃呼ばれていた名前や苗字など本人の了解のもと使用している。重要な書類は事務所内にて管理し、職員の守秘義務についても指導・徹底に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の思いや訴えができるよう、日々、コミュニケーションを図り信頼関係が持てるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースで「仕事をする」という感覚が時折見られることがありますが、ご利用者一人一人がそのひとらしく過ごしていただけるように支援し、その都度ミーティングで反省、成功例を聞き行動している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月一回、訪問散髪を来ていただいております。洋服も自分で選べる方には選んで頂いております。そうでない方は着方が偏らないように配慮しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑で収穫した野菜を料理し、同じ食卓を囲みながら、味を評価したりして和やかに過ごしています。	両ユニットに配置された専任の調理担当者が中心になって作成した献立により、ホーム菜園の野菜も活用しながら日々の調理が行われている。食材購入は職員が行っているが、茶碗・トレー拭き等入居者のできる事を支援し、職員も同じ物を見守りに努めながら一緒に摂っている。外出を兼ねファミリーレストランでの食事は入居者に好評であり、食事の様子は店の了解のもと、写真におさめ、家族にも紹介している。	季節に配慮した食事支援が一人ひとりに合った量で提供され、毎食の感想が担当者によって記録されている。今後は入居者の声や味・献立のバランスなど次に活かせる感想を残す事も必要と思われる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の食事量、水分量もほとんど把握した上で、その日の健康状態を考え、提供しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	現状 本人さんが自らできられる方にはやっていただいておりますが、そうでない方々については必要に応じて 歯磨き等を行っております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄のサインを見逃さずに昼夜問わず、トイレでの排泄を支援しています。そうすることでオムツやパットの使用枚数減につながると思い、努力しております。	個々の排泄パターンに応じ昼・夜トイレでの排泄を支援している。小まめなトイレ誘導や声かけ、自立の継続など個別対応は、失敗を減らし尊厳や排泄用品の家族負担軽減に繋がっている。また、日中の排便コントロールに努める事で夜間の安眠支援に繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬や浣腸等に頼らない自然な排便ができるように取り組んでいる。朝からの運動や繊維質の多い食事や必要な水分量確保、トイレサインを見逃さないように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	皆さん一日おきの入浴だが楽しみしてある。拒否が強い場合はシャワー浴、足浴のみにしたりしている。	週3日の入浴を支援しているが、汚染時はシャワー浴によりその都度対応し、拒否の場合は清拭や足浴を行っている。入居者がゆっくり楽しい入浴を楽しめるよう、浴室・脱衣所は清潔に管理し、柚子やみかん・菖蒲などの季節風呂も取り入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠については、日頃より昼夜逆転のないように日中は体を動かしたりして覚醒して活動されるように支援している。状況に応じては居室で休んでいただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用の確認は職員により責任を持って行っている。薬の説明書にて名前、はらたき、副作用などの注意事項を確認するようにしているが職員によっては理解度が低いこともある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者が出来ることはやって頂いております。また ゲームや作品作り、誕生会、月の行事や季節の行事を通して楽しんでいただき気分転換等を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周囲の散歩などいつでも行かれているが、近くで催し物等があれば利用者に声掛けして出かけたりしている。また 家族との外出も行われている。	敷地内は散歩や散策を楽しめる自然豊かな環境である。管理者は冬の季節も入居者が体調を崩すことがないよう、特に秋は少しの時間でも外出支援を行っていると語っている。訪問当日も玄関先に置かれたメダカやスレインの入った水鉢を眺めながらホーム敷地内を散歩する入居者と職員の姿があった。かかし祭りや彼岸花・菖蒲見学(地域住民宅)へのドライブ外出をはじめ、家族の協力による法事や墓参も行われている。日常的な散歩はチェック表に記されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭的なトラブル防止の意味もあり、個人的にはお金は所持されていません。日常生活に必要なものはその都度 ご家族に相談して、こちらで立替で購入しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により電話をしたり、ご家族にも電話を取次ができるようことを伝えていきます。また 郵便物も制限はしていません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い玄関ホールにはスロープ、広い廊下には手すりやエアコン、リビングにはゆったりと寛げるソファーや大型テレビ、エアコン、居室やどの空間も大きな窓があり、四季の景色、鳥や虫の音が楽しめます。浴室やトイレも清潔保持に努めています。	玄関ホールをはじめ廊下などゆとりの共用空間は、木目の落ち着きを活かし、手すりや腰掛けが要所を設け、入居者が安全に過ごせる工夫がとられている。廊下で歩行訓練をする方やソファでテレビを見たり新聞を広げる方など思い思いの時間を過ごせる環境である。また、職員は日々の掃除や換気をはじめ、空調管理により居心地良く過ごせるよう配慮している。	今後は定期的に掲示物・配置品の見直しや、豊かな自然環境の中ではあるが花・木々などをホーム内にも取り入れ季節感ある共用空間作りに期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでソファーで利用者同士でゆっくりとテレビをみたり、話をしたり、食堂のテーブルを囲んで作業をしたり思い思いに過ごしてあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者のご家族とが考えられ、染みの物や好みのものを持ち込まれたりして、安全に過ごしやすいように使っています。	入居者が安心・安全に過ごせるよう家族と連携を図りながら、馴染みの品を持ち込み、ベッドや畳に布団敷きなど個々に応じた環境整備に努めている。明るい部屋には自宅から殆どの荷物を持って来られている方や、ポット・急須などの湯茶セットを持参し自室で楽しめる方など自由な時間が過ごせる空間である。それぞれの居室は担当者によって掃除や衣類管理などが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーで手すりやスロープもあり利用者の安全を考えてつくりです。散歩やホーム敷地内の畑やベンチに出られる時も職員が見守りやすい作りとなっています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372400939		
法人名	有限会社 ホリ		
事業所名	グループホーム たんぽぽ 西棟		
所在地	熊本県玉名郡南関町四ツ原1338		
自己評価作成日	平成25年9月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成25年9月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな田園風景を眺望できる小高い丘の上であって、すぐ近くには毎年お花見の招待をして頂ける大きな工場もあり、民家も点在しています。また近隣にはいろいろなお花の名所に恵まれており、機会あるごとに外へ出て季節を味わって頂いております。
ホーム内にも常に野の花、山の花に気を配り、鳥のさえずりや虫の音など身近に自然を感じて生活されています。
作物農家と直接契約し砂地で収穫されたおいしいお米を購入し、卵は飼育農家から直接新鮮なものを購入したり、ホーム内にも畑を利用者と共に作り、季節の野菜などを収穫し、おいしさを追求した料理を作っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--	--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関ホールに事業所独自の運営理念を提示し、毎朝朝礼時、月一のミーティング時に職員全員で唱和し、実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接する工場との相互交流や買い物等の地域の中での生活拡充を図り、地域住民のボランティアの訪問の他、たんぽぽ主催のグランドゴルフは常態化し多くの住民が楽しみにされています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援などを訴えながら、事業所の地域貢献のひとつとしてグランドゴルフ「たんぽぽ杯」を主催しているが、人々に向けて生かすというのはなかなか難しい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、定期的開催し、その間のサービス現状を報告 家族や知見者、行政、他の事業所からの意見を基に話し合い、その後のサービスに生かすようしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2ヶ月に一度の運営推進会議には行政の方へ出席していただきホームの実情や取組を伝えるなどして協力関係を築くようしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の介護保険法指定基準については、随時、説明し理解してもらっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法については、随時、説明し、理解してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に周りに対象となる方々がおられず、資料として回覧し話をするもの全ての職員が理解し活用できるようには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に家族に重要事項説明書に沿って入居料、ホーム内での生活の仕方などを事例を基に説明、理解していただき契約に至っている。解約も問題にあったやり方でしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価機関へのアンケートや運営推進会議でのご家族の意見、また介護計画変更時や担当者会議等ご家族等の訪問時には、現状を説明しご意見やご要望を聞き、その後活かすように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や日々の申し送り中で、意見や提案が行われ 良いと思われる個々のケアの方法や運営方法が取り入れられている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績などを考慮して、職員も生き生きと仕事に取り組み、向上心を持てるような職場づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時の当ホームで経験のある職員が指導したり、他の施設への研修、県の研修参加を含め、ミーティングの中で良いケアが行えるように説明したり、随時 説明したりしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所の推進会議、玉名郡市グループホームの連絡協議会への参加を通して交流する機会を作り、それを参考に今後のサービスの質の向上を図るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人がここで安心した生活ができるよう、寄り添いゆっくとコミュニケーションをとることで、その人らしさを知り信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人のこれまでの生活状況をご家族等から伺い、ご意見ご要望に添えるようなサービスに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族が当ホームで健康管理面で不安が生じた場合は、医療機関との連携をはかり随時 対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事は同じものを一緒にとり、利用者によっては 食事の準備後片付けや洗濯物をたたんだり 畑仕事をしたり、散歩をしたり 本人と穏やかに一日を過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来ていただいた時に現状を説明し、今後 ご本人に対する支援について話合うように努めています。3ヶ月に一度は入居者の状況報告を行っております。気になることがあれば電話で報告することもあります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の他、知人や近所の方の面会や、初詣に出かけたり、家族の希望でお墓参りや法事への外出もあります。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食卓の席や、リビングで過ごす場所、入浴の順番など 利用者同士の関係を把握し関わり合いがうまくいき孤立させないように配慮し、支障が生じた場合は変更している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今まで培ってきた関係を大切に思い ご家族の相談にのったり、お顔を見に行ったりしております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションがとりにくい利用者に対しては表情・感情、発語をみおとさないように受け止めてプランを実践しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前やその後にご本やご家族から話を聞く中で把握し、生活環境、サービスの利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出勤してきたら必ず、業務日誌、連絡帳を読むようにし 朝礼時 勤務交代時には必ず申し送りを行い、その後の本人に合った支援や対応をするように心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	短期・長期目標を担当者会議であげ、必要に応じて担当者だけではなく職員も同席して、プランを見直し現状にあった計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、連絡帳、まるごととらえたケア記録に記録を行い、課題に対してうまくいった方法など職員間で情報を共有して、今後の計画に役立てるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況の変化やニーズに対して医療機関との連携や外出による気分転換等、柔軟な支援やサービスを行っていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生活の中や毎月の行事の中なかに自然や季節感を取り入れ、ボランティアの訪問、ホーム内の畑、花壇の手入れや収穫など地域資源を生かし暮らしを楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への定期的な受診や往診により、本人及びご家族等の訴えや希望を聞いて頂いて、適切で安心していただける医療を受けて頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	急変等に備えるため協力医療機関を定め、かかりつけ医による定期的な往診、または定期的な受診を行っております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報の提供と、病院へ付き添うことにより本人やご家族の安心に努めており、入院時の面会にも行っております。必要と思われる場合は直接 医師からの説明をうけています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の場合、人員体制や高レベルの支援方法も必要で現時点では困難であるため、連携している医療機関に搬送し、対応してもらっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体ミーティング、研修、マニュアルと情報として流しているが、職員個々の能力の違いによる対応などが無いように繰り返し訓練していく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署と防災会社の協力を得て防災避難訓練を行っている。定期的なスプリンクラーの点検を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライドを傷つけないような言葉づかいや対応については、日頃より徹底するよう努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の思いや訴えができるよう、日々、コミュニケーションを図り信頼関係が持てるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースで「仕事をする」という感覚が時折見られることがあります。ご利用者一人一人がそのひとらしく過ごしていただけるように支援し、その都度ミーティングで反省、成功例を聞き行動している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月一回、訪問散髪を来ていただいております。洋服も自分で選べる方には選んで頂いております。そうでない方は着方が偏らないように配慮しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑で収穫した野菜を料理し、同じ食卓を囲みながら、味を評価したりして和やかに過ごしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の食事量、水分量もほとんど把握した上で、その日の健康状態を考え、提供しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	現状 本人さんが自らできられる方にはやっていただいておりますが、そうでない方々については必要に応じて 歯磨き等を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄のサインを見逃さずに昼夜問わず、トイレでの排泄を支援しています。そうすることでオムツやパットの使用枚数減につながると思い、努力しております。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬や浣腸等に頼らない自然な排便ができるように取り組んでいる。朝からの運動や繊維質の多い食事や必要な水分量確保、トイレサインを見逃さないように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	皆さん一日おきの入浴だが楽しみしてある。拒否が強い場合はシャワー浴、足浴のみにしたりしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠については、日頃より昼夜逆転のないように日中は体を動かしたりして覚醒して活動されるように支援している。状況に応じては居室で休んでいただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の確認は職員により責任を持って行っている。薬の説明書にて名前、はらたき、副作用などの注意事項を確認するようにしているが職員によっては理解度が低いこともある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者が出来ることはやって頂いております。また ゲームや作品作り、誕生会、月の行事や季節の行事を通して楽しんでいただき気分転換等を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周囲の散歩などいつでも行かれているが、近くで催し物等があれば利用者に声掛けして出かけたりしている。また 家族との外出も行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭的なトラブル防止の意味もあり、個人的にはお金は所持されていません。日常生活に必要なものはその都度 ご家族に相談して、こちらで立替で購入しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により電話をしたり、ご家族にも電話を取次ができるようことを伝えていきます。また 郵便物も制限はしていません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い玄関ホールにはスロープ、広い廊下には手すりやエアコン、リビングにはゆったりと寛げるソファや大型テレビ、エアコン、居室やどの空間も大きな窓があり、四季の景色、鳥や虫の音が楽しめます。浴室やトイレも清潔保持に努めています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでソファで利用者同士でゆっくりとテレビをみたり、話をしたり、食堂のテーブルを囲んで作業をしたり思い思いに過ごしてあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者のご家族とが考えられ、染みの物や好みもの持ち込まれたりして、安全に過ごしやすいように使って頂いています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーで手すりやスロープもあり利用者の安全を考えてつくりです。散歩やホーム敷地内の畑やベンチに出られる時も職員が見守りやすい作りとなっています。		